

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		横浜市中部地域療育センター 児童発達支援事業所「フルール」				
		公表日 令和8年 3月 2日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	0	限られた中で場所や動線の設定、活動を行う時間調整等している。	お子さんの状態像に合わせてクラスを編成しているが、通われる中での変化もあるため対応しきれない側面もある。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4	2	フルール内で柔軟に職員体制を組んでいる。必要時は他部門に応援を依頼している。	勉強会等で保育が手薄となる。別日で設定するなど開催の仕方が要検討か。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	0	視覚支援を取り入れている。お子さんの状態像に合わせて構造化を実施している。	クラスによって教室のレイアウトを変更しているため準備に時間を要する。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5	1	限られたスペースで無理なく行える活動を実施。掃除等こまめに行っている。	建物の環境上、換気できない。老朽化により不具合など起こりやすい。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	0	個別に休憩できるスペースを設置、クラス外にも倉庫を整理して活用している。	安全把握のための体制上、活用できない場合もある。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5	1	活動や勉強会等、全職員で確認や振り返り、検討を行っている。	積極的な参画の意識が薄かったので改めて意識していきたい。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0	日常のやりとりや面談、勉強会後のアンケート等から保護者のニーズを吸い上げ、検討している。	ニーズを表面化されにくい方もいるのでやりとりの中で意識していく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0	こまめにミーティングを設定、十分に検討している。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6	0	外部からの見学があった際は感想を伺う等している。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6	0	研修日を設定、内部や外部見学、zoom参加など行っている。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6	0	事業所内に掲示、HPやメールで情報提供を行っている。	内容をわかりやすく説明する方法を検討していく。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、個別支援計画を作成しているか。	6	0	アセスメントシートを活用し複数の職員で評価、作成している。	
	13	個別支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6	0	職員間で情報を共有した上で、お子さんに合わせた検討を行っている。	個別対応ケースは場面の共有がしづらいため、見立てや支援内容のすり合わせに工夫が必要である。
	14	個別支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6	0	ねらいに合わせた活動を保育の中に組み込んでいる。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	1	項目ごとに付けた記録用紙を用い、評価視点を確認している。	経験の浅い職員も共通の評価視点を持てるようブラッシュアップしていく必要がある。
	16	個別支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6	0	全職員で確認、日々の保育で生かしている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	0	複数の職員で集団と個別の視点で活動を組み立て、内容やねらいを確認している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6	0	5領域や就学を意識して様々な活動を組んでいる。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる個別支援計画を作成し、支援が行われているか。	6	0	同じ活動でもやり方を変える等、個々に合わせた内容を実施している。	欠席の多い児に対応しきれない側面あり、どこまで対応できるか検討が必要である。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	0	毎回確認を実施、役割をローテーションしながら補っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	0	毎回振り返りを実施、今後に向けて工夫やねらいを検討している。	
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	0		業務の効率により活かせるような記録用紙の見直しを検討する。	
23	定期的にモニタリングを行い、個別支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6	0			
関係	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6	0	担当だけでなく複数で参加できるよう予定を調整している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	0	幼保への巡回、幼保職員・民間事業所向け見学会を実施、適宜学校教諭の見学を受け入れている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6	0	巡回等で情報を共有。学校へは個別支援計画書を送り文書として活用できるようにしている。	

係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4	2	保護者の意向に沿って、書面を通じた情報共有を行っている。	職員間の直接的、相互的なやりとりはない。
	28	(28~30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	-	-		
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	-	-		
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	-	-		
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	6	0	OTや心理、他保育スタッフから助言を受ける機会がある。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	0	6		
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6	0	月に1, 2回個別報告を設定、必要に応じて対面や書面でやりとりしている。	顔を合わす機会が少ない保護者に対する対応を模索中である。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6	0	様々なテーマの勉強会や懇談会を開催、保護者が取り入れやすい内容を心掛けている。	
保 護 者 へ の 説 明 等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6	0		
	36	個別支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の視点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6	0	保護者の意向は書面や面談で聞き取りを行い、児の意向は1対1の個別や遊びの場面で聞き取りを実施している。	
	37	「個別支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から個別支援計画の同意を得ているか。	6	0	スペース上、書面に書ききれない普段の様子を補足説明している。実際のグッズを用いる等してイメージしてもらえよう説明をしている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6	0	年3回面談を設定、必要に応じて面談以外でも対応を行っている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	2	4	懇談会での情報共有や勉強会の感想共有の時間を設けている。	父母の会やきょうだい支援は行っていない。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6	0	事業所内だけでなく、ソーシャルワーカー等の他部門でも対応できるようにしている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5	1	毎月予定表を配布。年に複数回、就学等テーマを絞った“通信”を発行。マチコミは必要時に使用している。	紙媒体のものを整理しきれないという声も聞かれたことがある。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6	0	複数人でのチェックを徹底。ミスがあった際は速やかに報連相、全体共有を徹底。	ミスが起こらないよう日々意識する必要がある。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6	0		
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	5	そのような機会はないが、見学者の希望があった場合は積極的に受け入れる。	地域との交流はない。
非 常 時 等 の 対 応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	0	保護者の方もいつでも閲覧できるようマニュアルを保管している。各クラス年1回避難訓練を実施。	
	46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6	0	非常時の職員の役割や必要な動きを確認している。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5	1	アンケートにて健康面の確認を実施。	予防接種等は偶発的に判明することが多く、申し出いただくことは浸透しにくい。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	0	食事場面はないが、通所開始前に対応の必要の有無を確認している。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6	0	虐待や事故防止の研修へ参加。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5	1	安全確保のための身体拘束(接触)は速やかに保護者と共有し、環境設定やスケジュールの再考等の対応を計り、事故や自傷他害を防止するようにしている。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6	0	ヒヤリハットがあった際は、都度全職員で共有、記録を残し、方策についても記載している。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6	0	対応について身体拘束にあたるか等、全職員で共有している。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、個別支援計画に記載しているか。	6	0			